1 大社神社

祭神は大国主命です。この神社の夏祭りは国府夏まつりと呼ばれ、各町内からの山車と歌舞伎行列が旧東海道を大社神社まで練り歩きます。

2 御油の追分

東海道と姫街道の分岐点で、常夜灯と「左ほうらいじ道」「砥鹿神社道」「秋葉山三尺坊大権現道」の文字が見える道標があります。

3 東林寺

室町時代の創建で、本尊の阿弥陀如来など多くの文化財があります。また、宿場の繁昌のかげで働いた飯盛り女たちの墓もあります。

4 関川神社

境内には推定樹齢800年のクスノキの巨木と「夏の月御油より出て赤坂や」と詠んだ芭蕉の句碑があります。

5 浄泉寺

薬師如来と観音堂に並ぶ石造りの観音様が名高いです。境内には安藤広重の浮世絵に描かれたともいわれるソテツがあります。

6 大橋屋(旧旅籠鯉屋)

安藤広重の浮世絵にも描かれた大橋屋(旧旅籠鯉屋)は、約200年前の築造とされ、江戸時代の風情を残す景観を楽しむことができます。

7 赤坂休憩所「よらまいかん」

江戸時代をイメージした昔風の建物です。トイレもあり無料で休憩できます。

時 9:00～17:00　¥ 無料
休 月曜日・年末年始

県営東三河ふるさと公園

自然環境を生かした県営公園です。東三河の歴史や文化、ゆかりの植物を紹介する「三河郷土の谷」や東海道の宿場町をテーマにした「東三河あそび宿」、ピクニック園地、展望ツツジ園などがあり、散策コースも整備されています。

時 7:00～18:30(4月～9月)
7:00～17:30(10月～3月)
☎ 0533-87-9301
休 無休 ¥ 無料

トイレ　駐車場

ここにスタンプを押してね!!

御油の松並木

所在地　豊川市御油町並松　他
駐車場　豊川市御油町井ノ口　30台(大型バス可 ただし、要事前予約)

御油の松並木資料館

所在地　豊川市御油町美世賜183番地
入場料　無料
休館日　月曜日・年末年始
月曜日が祝日の際は開館します
(8月第1金土日曜日※御油夏まつり時)
駐車場　普通車3台、大型1台
電　話　0533-88-5120
開　館　10:00～12:30／13:30～16:00

あくせすまっぷ

鉄道　名鉄名古屋本線御油駅(普通停車)から徒歩5分
車　東名高速道路音羽蒲郡ICから国道1号経由5分

豊川市商工観光課

〒442-8601 愛知県豊川市諏訪一丁目1番地
TEL●0533-89-2140　FAX●0533-89-2125
HP●https://www.city.toyokawa.lg.jp/

2020.08／20,000

御油の松並木と御油の松並木資料館

御油の松並木

御油の松並木資料館

御油の松並木

天然記念物・御油の松並木

御油の松並木は、慶長9年（1604年）徳川幕府の道路政策として、奉行の大久保長安によって植樹されました。松並木は、東海道を往来する旅人たちに、夏には緑の木陰で陽射しを遮り、冬には寒い風や雪から守り、また快い松風の音に旅の楽しみと慰めをあたえたものでした。

御油の松並木は、御油宿から赤坂宿までの600mにわたって約300本の松の大木が並んでいます。昭和19年11月、国の天然記念物に指定され、また昭和47年には貴重な文化財を守ろうと住民の熱意によって愛護会が発足して種々手入れに励み、宿場が栄えた頃と同じような、ときわの松の色を今もなおとどめています。

東海道中膝栗毛と御油の松並木

御油の松並木は、「東海道中膝栗毛」の舞台になっています。作者の十返舎一九は江戸時代のこっけい本作家で、「東海道中膝栗毛」は享和2年（1802年）に刊行し、多くの人に愛読され語り伝えられました。

主人公はひょうきんな喜多八と弥次郎兵衛。江戸を立ち伊勢参りを目指した2人は、途中も失敗を重ね吉田宿を無事通過。『はや日傾き暮れに近ければ、いざや急がんとて喜多八「ゆうべの泊まりは中くらいな宿だった。今夜は赤坂までわしが先に行っていい宿とりやしょう」と先に行く。弥次郎兵衛あとに行くに、ほどなく御油の宿に至るころ、はや夜になり、宿場の女に留められ「この先の松並木には悪いキツネが化かすからここに泊まれ」とおどされる。』喜多八を追って街道を行くと前方の松の根元に喜多八がいました。暗さに怖くなって弥次さんを待っていたのだが、弥次さんはキツネが喜多八に化けていると思い、喜多八を取り押さえ手拭でしばり赤坂の宿までつれていきました。

まさに講談の世界そのものですが、御油の松並木を見事に表現した、くすっと笑える話です。

弥次喜多の版画

御油の松並木資料館

御油の松並木と東海道五十三次35番目の宿場として栄えた御油宿に関する資料を展示しています。

江戸時代の御油宿の町並の復元模型や広重の浮世絵版画、近世交通文書や旅装束などの資料約130点のほか、入口には大きな松の切株があります。

狂歌東海道

旅人留女

浮世絵版画
（1797～1858年）の作品

東海道五十三次の内御油（旅人留女）など

安藤広重●版画

天保年間 助郷の旅

文政年間 医者の往診用駕

天保年間 旅装束

仕込杖

文政年間
酒運び桶（馬用）